vol.4
July.19.2023

未来からの留学生 きらり

認定こども園あかみ幼稚園　園長　中田幸子
認定こども園メイプルキッズ　施設長　長島弥生

７月に入り、不安定な天候が続いていますね。日中の体温を超える暑さの日々、午後には雷鳴とともにゲリラ的な豪雨など、ひと昔とは違う異変を感じています。環境省が（改訂版 2019）作成した『２１００年未来の天気予報』では、地球温暖化に対して、何も手だてをしなかった場合、東京の夏の気温は４３．３度、冬でも２６度の夏日になる日もあると伝えています。私たちにできることは何かを考えていきたいですね。

「あきまつり」に向けて

６月、７月と２回に分けて、あきまつり実行委員会が開催されました。
そこでは、本部役員・顧問、おまつり係チーフ、
お父さんスタッフ係チーフ・サブチーフの方が集まり、
今年の「あきまつり」をどのように行っていくかを検討しています。

あきまつりの目的は・・・

・「子どもたちのために！」を合言葉に園と保護者がその思いを共有する。
・保護者会と園とが、一枚岩となって活動することで、園と保護者の関係を構築していく。
・1 つの目的に向かって、保護者会と園、地域、さらに保護者同士がつながっていく過程を大事にする。

目的については、6月１６日に保護者会より配信されましたメールの中に、動画としても紹介されています。このアドレスで見られますので、ぜひ、みてください！　　→https://youtu.be/aqMmo_rilXU
皆様からも、たくさんのアイデアをいただきました。そのアイデアをもとに、目的を達成するために何をするかの議論を実行委員会で重ねています。

子どもたちが楽しめるあきまつりを保護者会と園とで、一緒に活動を進め、子どもたちのためにつながっていくことを目指していきたいと思っています。

行事について

今年度も、行事のねらいを再確認し、内容の見直しや、行事自体の見直しを図っています。
先日、園長ホットラインで、親子遠足などについてのご意見をいただきました。保護者会役員会でも、そのことをお伝えしました。遠足も含め、その他の行事の見直しについて、８月号にてお伝えしたいと思います。

幼小接続プロジェクト

赤見小学校とあかみ幼稚園の幼小接続プロジェクトは、今年度で９年目になります。
お互いが授業参観や保育参観を経て理解を深め、その後、意見交換を行っています。

先日、もり組の保育者等が赤見小学校での研究会に出席してきました。
国をあげての教育改革「架け橋プログラム」は去年スタートしたことは、前号で理事長がお伝えしたことですが、赤見小学校とあかみ幼稚園の接続プロジェクトは、文科省が架け橋プログラムを立ち上げるずっと前から、継続して行ってきたものです。

さて、なぜあかみ幼稚園が、幼小接続プロジェクトを続けているのか、
また、幼小の接続期がなぜ大切なのか・・・
次ページの　― PART II －『幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム』をご覧ください。

― PARTⅡ ―
『幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム』
（略して「架け橋プログラム」）とは？

Guest　理事長 中山 昌樹

前回は米国の「ペリー就学前プロジェクト」が示した、子どもが思い切り遊び込むことで結果として身につける、「非認知的能力」（一生を生き抜く力）についてお伝えしました。このプロジェクトは、ノーベル経済学賞を受けたジェームス・ヘックマンが行ったことから、別名「ヘックマン調査」とも呼ばれています。この調査は、たくさんの国や地域の教育政策に大きな影響を与えています。

幼児期に質の高い教育を受けた子どもは、高校中退率が低く、高い収入を得て働き自分の家を持つ率が高い。一方で犯罪により逮捕される率は低い。

では 0 歳から 18 歳の育ちの中でも、とくに大事な時期である 5 歳児と 1 年生の 2 年間を見たとき、小学校に入学したばかりの 1 年生ではどのような教育が求められるのでしょうか。繰返しになりますが、「架け橋プログラム」は国をあげての教育改革です。そこでは、小学校の低学年教育の改革が、大きな目玉になっているのです。

「架け橋プログラム」は小学校教育を先取り（前倒し）するものではありません。むしろ逆で、小学校の低学年教育を幼児教育の遊びを生かしたものに変えていこう、というものなのです。

具体的には「生活科」が重要な役割を果たすことになります。「生活科」という教科は、平成元年に誕生しました。これは幼児教育を参考にして作られた教科です。何よりも子どもの「思いや願い」を大切にし、いろいろな教科の枠にとらわれず、現実社会の中から課題や疑問を見つけ、時間をかけて友達と調べたり話し合って、わかったことを誰かに伝える・・・。

小学校と幼児教育施設の両方をよく知っている幼児教育センター（県教委）の髙木先生は、1 年生の夏休みまではすべて生活科でいいとも言っています。

皆さんが小学生だったころとは、だいぶ違った学校で、子どもたちは新しい学び方をしていきます。